

2024年度

K 2—2

国 語

2月25日(日) 人文社会科学部(法学科)
【前期日程】

16 : 25 ~ 17 : 15

注 意 事 項

試験開始前

- 1 監督者の指示があるまで、問題冊子、解答用紙、下書き用紙に手を触れてはいけません。
- 2 監督者の指示に従って、全部の解答用紙(1枚)に受験番号を記入しなさい。

試験開始後

- 3 この問題冊子は、2ページあります。はじめに、問題冊子、解答用紙、下書き用紙を確かめ、枚数の不足や、印刷の不鮮明なもの、ページの落丁・乱丁があった場合は、手をあげて監督者に申し出なさい。
- 4 解答は、すべて解答用紙に記入しなさい。(下書き用紙と間違わないよう十分注意してください。下書き用紙は採点対象となりません。)
- 5 文字数制限のある解答用紙の記入については、下記の点に留意すること。

- ・書き出しは、一マスあけない。
- ・改行したら、最初の一マスをあける。
- ・句読点は、それぞれ一マス使う。行の末尾については文字と同じ一マスに含める。
- ・小さな文字「っ」「ゃ」「ゅ」「ょ」はそれぞれ一マスで使う。
- ・英数字は一マスに2文字入れてよい。

- 6 問題は、声を出して読んではいけません。
- 7 配点は、比率(%)で表示してあります。

試験終了後

- 8 問題冊子と下書き用紙は、必ず持ち帰りなさい。

著作権の関係上、公表しません。

次の文章は、日本経済新聞二〇二三年六月二十八日電子版(旧植民地の美術品、欧州で返還論 歴史清算に外交も絡む)から抜粋したものである。文章を
読んで問題に答えなさい。なお、問題文を記載するにあたっては、原文を一部改めた。(配点四〇%)

著作権の関係上、公表しません。

問題 傍線部(2頁)について、略奪された文化財が返還される前提として、このような条件が付されるのはなぜだろうか。自身が考える条件の具体例を挙げたうえで、三〇〇字以上四〇〇字以内で答えなさい。

採点・評価基準（具体的基準）

教科・科目名	国語（前期日程試験：令和6年度）	問題番号	K2-2
対象学部・学科 （課程）等	人文社会科学部（法学科）		
出題のねらい	<p>傍線部の要点を説明させることによって、文章の読解力及び論述力を問うとともに、具体例を挙げさせることによって、社会への関心の度合いをはかることをねらいとしている。</p>		
採点基準	<p>①傍線部に関して、問題文から要点を読み取り、具体的な例を挙げて説明できていること。 ②論述に説得力があること。 ③文章全体に整合性があること。 ④誤字、脱字、文法上の誤りがないこと。</p>		